

音楽科学習指導案

1、題材名 音の入った絵本
教材「どどどどど」 五味太郎 作・絵

2、題材の目標

絵本のイメージをふくらませ、それを音で表現することができる。

3、知的好奇心を引き出すための指導の工夫

(1)児童の実態

本学級の児童は、活発で明るい子が多い。音楽に関しても毎時間楽しみにしているようである。入学当時から、仲間づくりの一環として友達と関わるような身体表現や手遊びのような学習活動をたくさん取り入れてきた。はじめは、遊び方や歌を知らないために聴いているだけだった子も、繰り返していくうちにだんだんと慣れ、積極的に友達と関わっていくことができるようになった。

1・2年生の目標になっている“リズムに重点を置いた活動”に関しては、基本の3つ（ ）を組み合わせたものを身体表現を通して体得していくことができた。今では、即興的に組み合わせるリズムをつくることもできる子が大半である。それをグループでつなげあって短い曲として完成させることもできた。

鍵盤ハーモニカは、幼稚園や保育園で経験している子もいたが、ほとんどは未経験だった。自分の楽器を持つことができ、そして自由自在に演奏してみたい、という子ども達の思いを損なわないように楽曲を選択し、練習に取り組んでいった。12月に開かれた“ふれあいコンサート”にクラス全員で参加し、今まで学習した数曲を披露した。立奏で全員演奏することができ、友達と合わせる楽しさを味わうこともできた。ドレミファソラの6音までの曲であれば、指遣いを考えながら、進んで練習に励む。

鍵盤ハーモニカも含め、楽器を演奏する際には、常に“よい音”を出すように意識させてきた。第二音楽室にある様々な楽器に触れる経験をする中で、ただ音を出すのではなく、よりよい音を目指して出すように指導してきた。そうしていくうちに、その楽器の奏法を教えなくても子供たち自身で見いだす場面もあった。

(2)指導の工夫

この活動は、学習指導要領の《表現(4)音楽をつくって表現できるようにする》の中の《イ、即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむこと》による。絵本のイメージを音で表現していくことで、音楽のもつよさに気づいてほしいと考えている。

教材の「どどどどど」であるが、主人公はブルドーザーであり、車庫に行くまでの間にいろいろな事件が起こることが書かれている絵本である。しかし、文章はなく、様子を擬態語としてドレミファソラシの言葉で表している。

イメージをふくらませていくために

絵を見て、子どもたちはその様子を察するであろう。しかし、そこに文は書かれていない。そこで、まず、その場面にあった文(お話)を考えていくことにする。そうすることで、選択する音・リズム・速さ・強弱等がイメージでき、表現の工夫へとつながっていくと思われる。また、絵本に書かれている擬態語は、できるだけ原則的にその通り表現させていきたいが、子どもたちがイメージを広げたものと考えたときには、多少、音を増やしたり変えたりしてもよいことにする。

豊かな表現にしていくために

イメージしたものを音にしていく時に、楽器をはじめ身の回りにあるものを媒介としていかなければならない。子どもたち一人ひとりが持つ楽器をはじめとした音色の情報は、様々であるので、音を出す時間を十分にとっていくようにしたい。また、子どもたちは、打楽器に集中してしまいがちだが、絵本の特徴である音階の擬態語を大事にするためにも旋律のある楽器は取り入れて表現していくようにする。

今回は生活グループ（４人）でそれぞれの場面を担当してつくっていくようにする。四人のイメージの違いは当然あると思うが、話し合いを通して協調させ、それぞれの個性を生かした表現にして欲しい。

個を看取るために

グループで表現の仕方を工夫していくため、どの子がどのような思いや発想をしたのかがつかみにくいと思われる。そこで、カードを使用していくことにする。今までに他の教科でも使用しているが、音楽でははじめてである。記入時間をかけすぎないような内容にし、子どもたちの内面や活動を看取っていくようにしたい。

5、題材計画 < 5時間扱い > （本時 第2次 3/3時）

次	ねらい・学習活動	題材の評価規準及び 具体的評価規準
第1次	ねらい：絵本のストーリーと特徴をつかみ、音と結びつける。 大きなスクリーンで、全員で絵本を読む。 音と結びつけることで、絵本がより楽しくなることへの見通しを持つ。	ア -
第2次	ねらい：イメージに合う音を選び、表現の仕方を工夫する。 絵の様子を表す文（お話）を考える。 絵の様子を表す音を選び、グループで分担する。 様子がよく現れるような表現の仕方を工夫する。（本時）	ア - イ - イ - ウ - エ -
第3次	ねらい：表現を工夫したものをまとめ、発表する。 グループで協力し、絵の様子に合うように演奏する。	ウ - エ -

【題材の評価規準及び学習における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の工夫	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規 準	絵本に興味を持ち、イメージをふくらませて音づくりをしている。	絵に合うような音を楽器や身の回りのものから選び、リズム・速さ・強弱等を工夫している。	絵の様子に合う音で、リズムや速さを考えて演奏している。	友達の表現のよいところを見つけることができる。
学習活 動にお ける 具 体的評 価規 準	進んで活動に参加し、友達の考えや表現方法を取り入れている。	絵の様子に合うように、楽器等からたくさんの音を見つけている。 絵の様子に合う表現の仕方（リズム・速さ・強弱等）	絵の様子がよく現れるように、リズム・速さ・強弱等を取り入れて表現している。	友達の表現のよさを見つけて聴くことができる。

を工夫している。

4、本時について

(1)本時の目標 (第2次 3/3時)

絵の様子に合うようにつくった表現を発表し、友達の意見を参考にして、さらによい表現になるようにしていく。

(2)本時展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ			
<p>1、既習曲を演奏する。 「ミッキーマウスマーチ」 「歌えバンバン」</p> <p>2、場面ごとに発表をし、感想交流をする。</p> <table border="1"><tr><td>場面のお話を話す</td></tr><tr><td>楽器を使って表現する</td></tr><tr><td>感想交流する</td></tr></table>	場面のお話を話す	楽器を使って表現する	感想交流する	<ul style="list-style-type: none">・学習の雰囲気高められるよう、リズムに乗って演奏できるような伴奏をする。・絵本を背面に大きく写し出す。・様子がわかるような表現になっているかどうか、お話の文を参考にして、カードに記録しながら聴くように声をかける。・自分たちの表現したものを友達がどのように評価したかをメモさせておく。・イメージの違いがあるため、場面の様子をどのようにとらえたかを重視して感想を交流させるようにする。 評価：ウ - エ - <p>・次回は、他の人たちにも見てもらう発表会であることを告げ、意欲を高める。</p>
場面のお話を話す				
楽器を使って表現する				
感想交流する				
<p>3、次時の予告をする。</p>				